Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

第 296 回松本歯科大学大学院セミナー

日　時: 2014 年 9 月 4 日(木) 17 時 30 分~19 時 30 分

場　所: 創立 30 周年記念棟大会議室「常念岳」

演　者: 田隅　泰三　氏 （田隅矯正歯科クリニック・院長）

タイトル: 改良型 Herbst 装置の歴史的背景と臨床報告

いわゆる骨格性上顎前突症例には，上顎が前方位をとるものと下顎が後退位をとるものとがあります。上顎が前方位をとる症例には headgear による成長抑制や抜歯が選択されます。一方、下顎が後退位をとる症例に対しては、下顎の前方移動による治療が理にかなっています。

下顎劣成長による骨格性上顎前突症例に対して，成長期には下顎骨の前方成長促進を目的とした可撤式の機能的矯正装置が有効と考えられますが、患者協力が必要不可欠であります。また，思春期後期から成人の場合には協力が得難く、下顎の前方移動が困難なため，上顎の小臼歯の抜歯によるカモフラージュ治療が主体であり、外科矯正治療も選択されます。

成長期に使用される機能的矯正装置には、Fränkel 装置(FR-2)、Twin Block 装置、Bionator 装置、Herbst 装置などがあります。これらは大半が可撤式であり，その中で永久歯列期に適応できるものとして患者協力を必要としない Herbst 装置があります。

Herbst 装置は 1905 年に Emil Herbst により考案されましたが，その後忘れ去られ、1979 年に Pancherz らにより臨床報告が行われ、注目されることになりました。Herbst 装置は固定式のⅡ級是正装置で患者の協力性に比較的影響されずに治療を効果的に行うことができる装置です。Herbst 装置は強制的に下顎を前方へ位置付け，下顎頭の成長の再活性化を促すことを目的としています。この装置は我が国ではあまり使用されていないものの，欧米では頻用され、多くの臨床報告がされています。

我が国での使用頻度が少ない理由としては、固定装置であるにもかかわらず大きく、違和感が強く、下顎前歯がかなり唇側傾斜してしまう欠点がありました。しかし近年そのような欠点を改善した、改良型 Herbst 装置が Dischinger により発表されました。改良型 Herbst 装置は上顎第一大臼歯と下顎第一大臼歯のみを短いロッド部分つなぐ装置で、小さく違和感も軽減されており、水平成分の反作用である下顎前歯の唇側傾斜も軽減しています。

今回、Herbst 装置における歴史的背景をふまえ、動物実験での効果や、成長期を過ぎた患者にも改良型 Herbst 装置を使用した臨床例についてお話したいと思います。

Matsumoto Dental University
Graduate School of Oral Medicine

1780 Gobara, Hirooka, Shiojiri,
Nagano 399-0781, Japan

略歴

1977 年　大阪歯科大学卒業
1981 年　大阪歯科大学大学院卒業(歯科矯正学講座)　歯学博士学位取得
1981 年　兵庫県姫路市において田隅矯正歯科クリニック開設
1990 年ー1993 年　Level Anchorage System インストラクター
1990 年　日本矯正歯科学会認定医・指導医取得
2006 年　日本矯正歯科学会専門医取得
2011 年　日本舌側矯正歯科学会認定医取得

1981 年ー1984 年　大阪歯科大学歯科矯正学講座非常勤講師
1984 年ー　　大阪歯科大学歯科矯正学講座嘱託指導医

2005 年ー2008 年　日本矯正歯科学会認定医審査委員
2008 年ー2014 年　日本矯正歯科学会専門医委員会委員

担当:硬組織疾患制御再建学講座　　山田　一尋